

保育(養護)と教育が一体化された Piramide (ピラミード)の理論的背景

〈注：オランダ Cito(旧オランダ王立教育評価機構)・ドイツ Cito・アメリカ Cito の協力のもとに作成しております。
文責：辻井 正〉

■ピラミードの保育(教育)の根っこは保育環境理論です。

子どもの行動を科学的に理解するためには、子どもにとって「保育環境」とは何かを知る必要があります。子どもの周辺に物理的な机・カーペット・おもちゃ・遊びのコーナーがあるのではなく、子どもがそれらに意味を見つけることで、目の前にあるものが生き活きと現実感を持ちます。保育

環境と相互的な関係を持つことで、現実の保育室よりも、子どもに意識された非現実的な保育コーナーで、見立て遊び、想像的な積み木の構築、自己の内面に気づく絵本コーナーが意味を帯びてきます。



〈遊びのコーナーが互いに有機的に関係し合う、構造化された保育環境〉